

慶長年間の連続地震と 歴史的な研究課題

災害科学国際研究所

災害文化研究分野

蝦名 裕一

400年前—慶長 (1596-1615)に連続した地震

1590(天正17)

豊臣秀吉の天下統一

1593(文禄2)

朝鮮出兵

1596(文禄5/慶長1)

文禄から慶長に改元

1600(慶長5)

関ヶ原の戦い

1603(慶長8)

徳川家康、征夷大將軍に

1615(慶長20)

大坂夏の陣、豊臣氏滅亡

1596 伊予地震

1596 豊後地震・津波

1596 伏見地震

1605 東海地震・津波

1611 会津地震

1611 奥州地震・津波



○慶長伊予地震

1596.9.1(文禄5年閏7月9日)

京都で有感地震(『言経卿記』)

伊予薬師寺の本堂・仁王門など倒壊
(薬師寺記録)

○慶長豊後地震 M7.0

1596.9.4(文禄5年閏7月12日)

「日本大地震ニテ中川家ノ沖ノハマノフ
ナツキニ津波ヲビタダシク」(『重祐伝』)

宣教師フロイスの報告

「由布院では山崩れで村が壊滅」

「キリスト教徒の家は助かった」

* 別府湾にて津波発生して港町が壊滅、沿岸5000戸のうち、残ったのが200戸。いわゆる“瓜生島伝説”の元になったとされる



伊予地震

豊後地震・津波

○慶長伏見地震 M7.3-7.8

1596.9.5(文禄5年閏7月13日)

「都の大地しんハ京ふしみの間、御屋形はかりにゆりくつし」(『島津家文書』)

「当市に於て恐ろしき大地震あり、約三時間が程絶え間なく続けり」

(ルイス・フロイス書簡)

豊臣秀吉の建築した京都伏見城天守閣の倒壊し600人が圧死、方広寺大仏の大破、大坂・神戸でも家屋倒壊

* 年号を「文禄」→「慶長」へ



伏見地震

○伊達政宗家臣・伊達成実の見た慶長伏見地震

「閏7月12日夜半時分大地震にて、御城の天守をゆり崩し、御殿共破...普請衆数多相果申候。...地震程をそろしき事は無之候由、御淀にて惣別の御殿共、柱二本は石をすへ、三本目は土五尺掘入、上の道具もかすがひにてしめ、兼ての御作事より相替候事は、地震の御用心にて候。

災害に備えた建築の普及

○慶長地震 M7.9 1605.2.3(慶長9年12月16日)

震源は南海トラフ、房総など諸説あり。...ゆえに「東海」「東南海」か名前が定まらない。
房総半島から九州に至る太平洋沿岸に津波来襲。八丈島で死者57人、室戸岬で死者400人など。

高知県「夜之地震、同夜半ニ大潮入而南向之国ハ悉く破損ス、西北向之国ハ地震計と云々」(『北川文書』)

八丈島「津浪アガリテヤツガ里ノ村ノ下残ラズ失フ」(『八丈実記』)

静岡県「仁科に津浪、陸地十二町まで上る」(『安良里風土記』)

1605慶長地震津波については
未だ多くの研究課題が残る



東海地震・津波

○慶長会津地震 M6.9

1611.9.27(慶長16年8月21日)

直下型地震、会津一円で倒壊家屋2万戸、死者3700人、鶴ヶ城の石垣が崩れる。

「辰刻致地震...山崩候而、其川を突塞候故」(『家世実紀』)＝河道閉塞

○慶長奥州地震・津波

1611.12.2(慶長16年10月28日)

津波は1時間ほど続き、村落に浸入。今泉(陸前高田市)は津波で壊滅。(『ビスカイノ報告』)

大地震の後に津波発生。死者1783人。(『真山記』)

従来の慶長“三陸”地震津波ではM8.1

今井・蝦名(2015)で史料を見直して分析した結果

地震規模はM8.4-8.7クラスに修正



会津地震

奥州地震・津波

慶長期に連続した地震津波については
なお研究・再評価の余地あり

慶長以降に発生する局地的な地震

1625.7.21(寛永2年6月17日)

熊本:M=5.0~6.0

熊本城天守閣・石垣被害

火薬庫爆発

「城中に五十人程死し塩硝蔵ともすりに火出て跡もなくふきちらし」(『欽古雑話』)

1616.9.9(元和2年7月28日)

仙台:M=7.0

仙台城の石垣・櫓破損。

1633.3.1(寛永10年1月24日)

相模・駿河:M=7.0

小田原で櫓・門塀・石垣大破。死者150人



熊本地震をうけて現時点で考えている仮説として

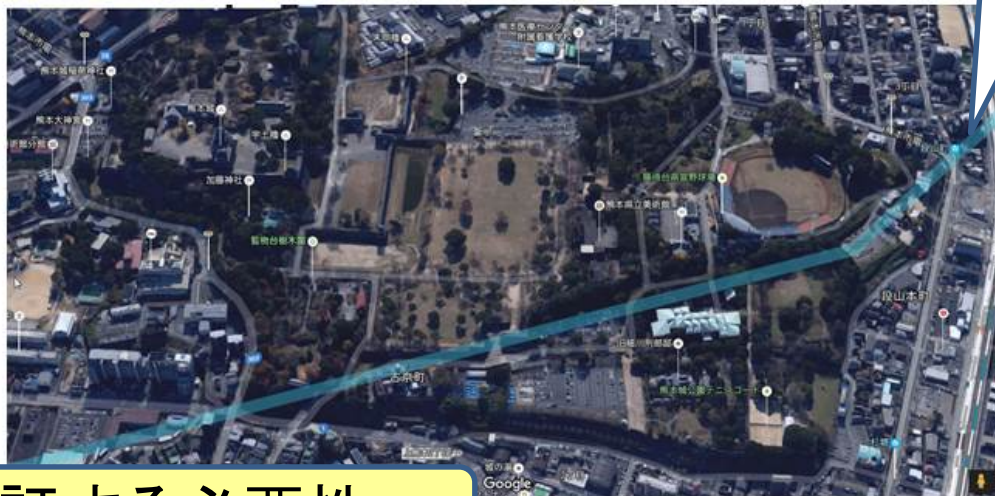
熊本城：中世に菊池氏の一族が建設、1591年より加藤清正が城郭・城下町建設。

立田山断層と熊本城の配置



立田川断層(推定)
の推定線が石垣に
沿っている。

断層面と石垣が
なぜ一致？
→熊本城築城時、
断層面に石垣を貼
り付けた？



当時の史料から検証する必要性

熊本地震をうけて現時点で考えている仮説として

1596年慶長伏見地震の後、徳島県で地形が隆起し、入浜式塩田が可能となったことを示す史料について、地質学的に検証。(小野・矢田ほか2015年報告)

地震後に実施された事業の類似性が物語るものは？当時の災害復興のセオリー？

石巻市日和山・川村孫兵衛像

慶長奥州地震津波の後に、長州出身の川村孫兵衛が仙台沿岸に塩田建設(蝦名2013)

慶長期に連続して発生した地震・津波については、その詳細についてはなお研究課題が多い。さらなる史料分析が必要。ひとつひとつの歴史災害を分析することが将来の防災へ。

